



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

6月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤尚子

自然の力

さくらだこども園の園庭には自然が豊かにあります。みかんの木にはアゲハチョウが卵を生み、梅や杏の実が落ち、ダンゴムシやアリが歩き回り、オタマジャクシは少しずつカエルになっていっています。どれも子どもたちにとっては「何だろう!」「おもしろそう!」と思う遊びの種です。

5月に色とりどりに咲き誇っていた花はだんだん枯れてきましたが、枯れてきた花は子どもたちの絶好の遊びの材料です。5歳児は、すり鉢に枯れた花びらを入れ、すりこぎですってきれいな色水を作って楽しんでます。少し茶色っぽくなったような花びらをすっていると、桜色や薄紫色などのきれいな色水になっていきます。友達がしていると自分でもしたくなります。でも、同じようにしても同じにはならず、少し違った色の、新しい自分の色水ができる面白さに、繰り返し試す様子が見られます。

4歳児は大雨の後にできた園庭の水たまりに興味をもち、一人がシャベルで水をすくい始めると何人かが集まってきて泥んこ遊びになっていきます。ねっとりとした土をこねたり、シャベルで地面に模様を描いたり穴を掘ったり…。土が水をたっぷり含んだ、こういうときにしか感じられない園庭の土の感触をたっぷり楽しんでました。

3歳児では、園庭で見つけたお気に入りの小石や木の実を大事にしまっている姿や、テラスを歩いているアリを見ていたら自分の足を上ってきて驚く様子などが見られました。

自然の力は、「何か見ていたい」「触ってみたい」「どうなるか、自分でしてみたい」などと思わせ、行動を呼び起こすところではないかと思えます。

自然との関わりでは、思うようにはならないこと、二度と元には戻らないこともあります。そのことも含めて、こども園では子どもたちにたくさん自然と関わって、たくさんの、気持ちと感覚の体験をしてほしいと願っています。「楽しい!」「おもしろい!」「不思議!」「そうなんだ!」「そうならないんだ…」「残念…」等々、自分が関わることで感じる思い、体験して学んだことを、しっかりと心に刻んでほしいと思っています。自分でしたことを自分で受け止められる心の強さを育てられるように、保育者は一人一人の子どもを支えます。

自然の豊かさはさくらだこども園の特徴の一つです。送り迎えのときに保護者の皆様もぜひ、たくさんの発見をお子さんと分かち合ってください。大人とは違う、その子なりの視点に驚かされるかもしれません。

— 今月の指導のめあて —

- < 3歳児 >
 - ・保育者や友達と過ごす中で、自分のしたい遊びを十分に楽しむ。
 - ・園で必要な着替えや所持品の始末の仕方が分かり、自分でする。
 - ・梅雨時の雨の様子や、育てている植物や野菜に興味をもち、見たり触れたりして楽しむ。
- < 4歳児 >
 - ・自分の好きな遊びをする中で、自分なりの動きや言葉で思いを表そうとする。
 - ・保育者や友達に親しみや関心をもって関わり、同じ場で遊ぶことを楽しむ。
 - ・色水や水を使った砂遊びなどの様々な水遊びをする中で、水に触れる心地よさや面白さを感じる。
- < 5歳児 >
 - ・自分の思いやイメージをもち、実現に向けて、考えたことを試したり工夫したりすることを楽しむ。
 - ・相手の話をよく聞き、友達に自分の思いやイメージを伝えながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。
 - ・水を使って遊ぶ中で、心地よさを感じたり、面白いと感じたことに繰り返し取り組んだりする。

